

私の好きな
まちなかスポット

小路のさきにお城が・・・



私の好きなスポットは、幼いころ毎日通っていた城西小学校の横の細い路です。

この路は、昭和新道（旧外濠）から真っ直ぐに中濠まで延びる路の先に彦根城が見える場所で、どんつきの多い彦根の路ではめずらしい場所です。

城西小学校は木造校舎から鉄筋コンクリートに変わっていますが、あとは幼いころの風景とあまり変わってなく、私にとっては、ほっとする場所です。

車一台がかろうじて通れる細い路。道を拡張しているなか、昔からのこの細い路は、人、自転車、車がそれぞれに気をつけながら譲り合い通っている。当然、路上駐車もない。

彦根の街によく似合うこの小路が、私は好きです。

（福谷 晃 彦根景観フォーラム会員）

「彦根辻番所の会」入会のご案内

旧彦根藩足軽組「善利組」の本拠地・芹橋地区には、現在 6件の彦根市指定文化財の足軽屋敷があります。特に「のぞき窓のある辻番所」は日本で唯一の遺構です。

このシンボルとも言える「辻番所・足軽屋敷」が平成19年に売却されようとした時、貴重な歴史遺産を守ろうと彦根市民が「トラスト活動」を展開し、平成20年8月、市民の寄付を得て彦根市が購入を決定し、保存されました。

その後、辻番所を拠点とした活動を展開するために平成20年11月に「彦根辻番所の会」が結成され、毎月1回、歴史・文化・生活をテーマとして「足軽辻番所サロン・『芹橋生活』」を開催しています。

「彦根辻番所の会」では一人でも多くの方々と共に、歴史を学び、文化を体験し、共に語り合う同志の入会を募っております。どなたでも入会できます。

お問い合わせは、

彦根辻番所の会 彦根市芹橋2丁目3-36 渡邊 弘俊
TEL 0749-23-3073 (FAX兼用) まで。

あなたも、彦根景観フォーラムに参加しませんか！

夢を語り合い、まちづくりを楽しむ NPO です。大学の教員、建築家、会社員、商店主、公務員などが集まり、知恵と力を合わせて活動しています。詳しくは**ブログ**をご覧ください。

● **ブログ** <http://hikonekeik.exblog.jp> (彦根景観フォーラムで検索)

● **定例会** 毎月第2水曜日 午後7時～9時 滋賀大学陵水会館 誰でも自由に参加できます。

● **お問い合わせ**：彦根景観フォーラム事務局 TEL 080-1416-5968/0749-27-1141 FAX 0749-27-1431
e-mail: hikonekeikan@hotmail.com まで



きらっと彦根 vol. 21

彦根の魅力 ★ 再発見

彦根まちづくり誌 2010年7月10日 通巻21号 編集/発行 NPO法人 彦根景観フォーラム

彦根芹橋のまちづくり 基本戦略

東京電力株式会社技術開発研究所 青木 仁

まち路地再生のデザイン

近世城下町の典型として町割りが良好に残る彦根ですが、歴史遺産である狭い路地をどう保全し、現代に生かすかという課題があります。

一方、近年、生活空間として「路地」の価値が見直され、人口減少・高齢社会の到来にあわせて、「コンパクトなまちづくり」の必要性が叫ばれています。

この点に注目して、青木 仁さんが、滋賀大学産業共同研究センターで、芹橋のまちづくりの基本戦略を提案されましたので、紹介します。

脱クルマ時代の「理想のまち」

青木さんは、脱クルマ時代の「理想のまち」を、

- ①クルマが低速で控えめにしか走行しない「信号機のない町」
- ②小さな建物と小さな庭の組み合わせからなる「緑と寄り添うまち」
- ③路地によって構成される「住む人、道行く人の顔が見えるまち」
- ④小さな店が、そこそこにあるまち
- ⑤住み・働き・訪れる人と、人々を包み込む風土、人々を満足させるコンテンツとそれを支える地域の文化や歴史が大切にされているまちと考えています。



こうしたまちには、低速で公共性と環境性能の高い移動手段が必要です。そして、既存のクルマ優先道路を人が安心して歩ける道と新交通手段に分割して再生するとともに、まちの構造も、歩くことを基本にお店や公共施設を配置する必要があります。このコンパクトなまちづくりは、ヨーロッパで実現しつつありますが、日本ではこれからです。



芹橋のまちの特徴

彦根市芹橋は、近世の特徴をそのまま残しているまちです。その特徴は、次のとおりです。

- ①9尺幅(2.7m)の路地が網目のようなネットワークを作っている
- ②50坪のコンパクトな敷地で、分割も可能である
- ③800を越える敷地群が集合している

これらの特徴を、新しい「まちづくり」の視点から見ると、「脱クルマ時代のまちの先駆け」、「郊外から都心への住居回帰の先駆け」、「コンパクトシティの先駆け」となる条件が備わっています。

江戸期のまちが、「環境と持続可能性を備えた21世紀のまち」のモデルとなり得ている点で、芹橋はいつの間にかトップランナーになっているといえます。

(次ページに続く)

特集：彦根芹橋のまちづくり基本戦略

まち路地の再生と
コンパクトシティづくり

- それぞれの彦根物語 75
- 多賀里の駅集い&野菜市
- 足軽辻番所サロン・芹橋生活

● 私の好きなまちなかスポット
小路のさきにお城が・
福谷 晃